

教科名	国 語	学年名	第1学年	年間授業時数	140 時間	教科用図書名	中学校「国語」・中学校「書写」 光村図書
教科の目標	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適す津に使うことができるようにし、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や、想像力、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。					学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・予習、復習として教科書を何回も読む。 ・新出語句の読み方や意味を予習する。 ・授業に積極的に参加し、課題に取り組む。 ・新出漢字や授業で学んだことを理解する。 ・学んだことをもとに自分の考えを深める。 ・ワーク・プリント等は必ず見直しをする。 ・宿題は忘れず取り組み、提出期限を守る。 ・意見を聞き、自分の考えを明瞭に伝える。 ・「朝読」の時間以外も読書に心がける。

	学 習 内 容	ね ら い	評 価 の 観 点 ・ 方 法
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・野原はうたう（朗読） ・シンジュン（物語） ・情報を整理して書こう（情報整理） ・ダイコンは大きな根？・ちょっと立ち止まって（説明） ・話の構成を工夫しよう（話す） ・楷書を書こう（書写） ・詩の世界（詩） ・言葉を集めよう（言葉） ・言葉のまとまりを考えよう（文法） ・読書を楽しむ（読書） 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の効果的な音読の方法を工夫す ・場面の展開に着目する。 ・伝えたいことを明社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる確に説明する。 ・意味段落・文と図の関連に着目し内容をつかむ。 	<p>（主体的に学習に取り組む態度） 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。 （知識及び技能） 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。 （思考力、判断力、表現力等） 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにあうことができる。</p> <p>・授業の様子・定期テスト・小テスト・課題等</p>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・星の花が降るころに（物語） ・大人になれなかった弟たちに・・・（物語） ・項目を立てて書こう（手紙） ・「言葉」をもつ鳥、シジウカラ（記録） 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の構成を考えて魅力的なスピーチをする。 ・楷書の字形の整え方、筆順などを確認する。 ・表現の効果を考える。 ・的確に伝えるために多くの言葉を集める。 ・言葉の句切り（文節・単語）を理解する。 ・課題に沿って本を読み、引用する。 ・場面や描写を結び付けて読む。 ・場面の展開や表現の効果、語り手に着目する。 ・情報を整理し、分かりやすい案内文を書く。 ・文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考える。 	
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・指示する語句と接続する語（言葉） ・いろは歌・古典の世界（古文） ・蓬莱の玉の枝・今に生きる言葉（古文） ・行書を書こう（書写） ・話題や展開を捉えて話し合おう（討論） ・助言を自分の文章に生かそう（評価・小論文） ・言葉の関係を考えよう（文法） ・少年の日の思い出（小説） ・単語の性質を見つけよう（文法） ・随筆二編（随筆） 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名遣いに注意し、古文の調子に読み慣れる。 ・古文の表現の特徴を知り、古典の世界に触れる。 ・楷書と比較し行書の特徴に気づく。 ・話題や展開を捉えて話し合う。 ・助言をもとに文章をよりよくする。 ・文節どうしの関係、文の組み立てを理解する。 ・場面展開や表現の効果、語り手に着目する。 ・単語の分類について理解する。 ・場面の展開や描写を基に、筆者の思いを捉える。 	

教科名	国語	学年名	第2学年	年間授業時数	140 時間	教科用図書名	中学校「国語」・中学校「書写」 光村図書
教科の目標	<p>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。</p>					学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習として教科書を何回も読む。 ・新出語句の読み方や意味を予習する。 ・授業に積極的に参加し、課題に取り組む。 ・新出漢字や授業で学んだことを理解する。 ・学んだことをもとに自分の考えを深める。 ・ワーク・プリント等は必ず見直しをする。 ・宿題は忘れず取り組み、提出期限を守る。 ・意見を聞き、自分の考えを明瞭に伝える。 ・「朝読」の時間以外も読書に心がける。

	学習内容	ねらい	評価の観点・方法
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・見えないだけ（詩） ・アイスプラネット（小説） ・枕草子（古文） ・多様な方法で情報を集めよう（情報整理） ・熟語の構成（言葉）・類義語・対義語・多義語 ・クマゼミ増加の原因を探る（報告） 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の特徴に注意して読む。 ・登場人物の設定を捉える。 ・情景描写の巧みさを読み取り、自分の考えをもつ。 ・多様な情報を集め、考えをまとめる。 ・熟語の成り立ちを考え、漢字への関心を高める。 ・文章全体と部分の関係や、文章と図表の関係に注意して読む。 ・話の構成や資料を工夫して相手の心を動かす提案をする。 ・行書の点画の省略、筆順の変化を理解する。 ・知識や経験と結び付けて読み深める。 	<p>（主体的に学習に取り組む態度）</p> <p>言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。</p> <p>（知識及び技能）</p> <p>社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。</p> <p>（思考力、判断力、表現力）</p> <p>論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な提案をしよう（話す） ・行書を書いて確かめよう（書写） ・短歌に親しむ/短歌を味わう（詩歌・解説） ・言葉を比べよう（創作・物語）・自立語 ・盆土産（小説） ・字のない葉書（随筆） ・表現を工夫して書こう（手紙） ・モアイは語る（論説）・敬語（言葉） ・根拠の適切さを考えて書こう。（意見・批評） 	<ul style="list-style-type: none"> ・似た意味の言葉を比べ、共通点や微妙な違いを知る。 ・党常任物の言動の意味を考える。 ・文章構成や表現の効果を考える。 ・通信文（手紙・電子メール）を書く。 ・段落の役割や文章の構成、展開の工夫を理解する。 ・適切な根拠を選び、構成などを工夫して明確な意見文を書く。 ・異なる立場の人と話し合う。 ・古文を朗読し、独特の調子やリズムを楽しむ。 ・漢詩特有の言葉遣いや調子・表現を理解する。 ・観点を明確にして文章を比較し、その分析を基に構成や表現の効果を考える。 	<p>・授業の様子・定期テスト・小テスト・課題等</p>
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・立場を尊重して話し合おう（話し合い） ・平家物語・徒然草（古文） ・漢詩の風景（漢詩） ・君は「最後の晩餐」を知っているか（評論） ・「最後の晩餐」の新しさ（解説） ・漢字と仮名を調和させて書こう（書写） ・魅力を効果的に伝えよう（評価・小論文） ・走れメロス（小説）・用言の活用（言葉） ・構成や展開を工夫して書こう（創作） ・付属語（言葉）・送り仮名（言葉） 	<ul style="list-style-type: none"> ・行書に調和する仮名の特徴を学ぶ。 ・作品の魅力の効果的に伝える。 ・人物層や表現の効果などに着目して、作品の魅力を考える。 ・構成を工夫して物語を書く。 ・付属語の働き、送り仮名の原則を知る。 	

教科名	国語	学年名	第3学年	年間授業時数	140 時間	教科用図書名	中学校「国語」・中学校「書写」 光村図書
教科の目標	<p>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。</p>					学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習として教科書を何回も読む。 ・新出語句の読み方や意味を予習する。 ・授業に積極的に参加し、課題に取り組む。 ・新出漢字や授業で学んだことを理解する。 ・学んだことをもとに自分の考えを深める。 ・ワーク・プリント等は必ず見直しをする。 ・宿題は忘れず取り組み、提出期限を守る。 ・意見を聞き、自分の考えを明瞭に伝える。 ・「朝読」の時間以外も読書に心がける。

	学習内容	ねらい	評価の観点・方法
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・世界はうつくしいと（詩）・握手（小説） ・学びて時にこれを習ふ（論語） ・文章の種類を選んで書こう（情報整理） ・熟語の読み方・和語・漢語・外来語（言葉） ・作られた「物語」を越えて（論説） ・説得力のある構成を考えよう（対話・質問） ・俳句の可能性・俳句を味わう（俳句） ・言葉を選ぼう（言葉） ・身の回りの文字を調べよう（書写） 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の効果的な使い方など表現の工夫に注意し読む。・作品の展開を踏まえて人物像を捉え、その生き方について考えを深める。 ・文章の種類を選び、構成を工夫して魅力的な紙面を編集する。 ・熟語の成り立ちや言葉への関心を高める。 ・論説の特徴を踏まえて読み、文章の構成や論理の展開を評価する。 ・聞き手の心に訴えるスピーチをする。 ・内容や表現に着目し、俳句を評価しながら読み深める。 ・状況や相手に応じて言葉の選び方や伝え方を考える。 ・手書き文字・活字などさまざまな文字を知る。 ・文節・連文節の係り受けなどの理解を深める。 ・表現の効果評価し、現代社会の状況と重ね合わせて考えを深める。 ・小説を批判的に読み、社会や人間について考える。 ・質問で相手の思いに迫る。 ・これまでの学習を生かし効果的に表現する。 ・文章を批判的に読み、これからの社会について自分の意見をもつ。 ・話し合って合意を形成する。 ・慣用句・ことわざ・故事成語などを理解する。 ・歴史的な背景に注意して和歌を読み味わう。 ・語句の効果的な使い方、文体の特徴に注意し読み味わう。 ・2年生までに学習した文法の理解を深める。 ・筆者のものの見方や考え方を捉え、社会や人間について自分の意見をもつ。 ・国際社会における人と人との関係について考える。 ・言葉や表現から作品の持つメッセージを捉え、自分の可能性について考える。 ・場の状況によって言葉を選び、考えをわかりやすく伝える。。 	<p>（主体的に学習に取り組む態度）</p> <p>言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとしている。</p> <p>（知識及び技能）</p> <p>社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。</p> <p>（思考力、判断力、表現力等）</p> <p>論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>・授業の様子・定期テスト・小テスト・課題等</p>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・文法を生かす（文法） ・挨拶（詩） ・故郷（小説） ・聞き上手になろう（対話・質問） ・未来に向かって（書写） ・人工知能との未来/人間と人工知能と創造性 ・合意形成に向けて話し合おう（話し合い） ・慣用句・ことわざ・故事成語（言葉） 		
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・万葉集・古今和歌集・新古今集（古文） ・夏草「おくのほそ道から」（古文） ・文法のまとめ（文法） ・誰かの代わりに（論説） ・温かいスープ（随筆） ・わたしを束ねないで（詩） ・三年間の歩みを振り返ろう（発表） 		